



八代市文化協会機関誌

# 文化やつしろ



目次

表紙写真 甲田 智之

《巻頭言》文化祭オープニングに思うこと

八代市文化協会会長 福田 秀俊 3

《平成二十七年 定期総会開催》

◆八代市文化協会功労者表彰

文化協会功労者 麦島 勝氏 5

本部役員功労者 藤吉千鶴子様

本部役員感謝状 下村 元子様 6

◆平成二十七年 熊本県文化協会協力会員芳名・八代市文化協会執行部役員・八代市文化協会常任理事

◆平成二十七年 熊本県文化協会事業計画

◆特別事業・講演会

「われはけふゆく 種田山頭火」(前山光則氏)

八代市文化協会 高木 容子 9

《会員の活動》

シニアコーラスフェスティバル in 宮崎に参加して

コールせせらぎ 久保田晴美 12

第四回八代版画美術展を終えて

熊日潮さる短歌大会開催される …… 八代歌人懇話会 太江田妙子 14

八代俳句会・鏡合同歌集

平成二十七年 吟詠発表大会を終了して

紫洲流日本明吟会熊本本部 松山 和鳳 16

ホワイエ・コンサート

高木 記 16

《会員広場》

社会常識 …… 熊本県文化協会協力会員 増田 國夫 17

湊川神社に参拝して …… 紫洲流日本明吟会熊本本部 西田 紫岱 18

親子共演コンサート …… 高木 記 18

くまもと子ども芸術祭出演 …… 植柳益踊保存会 野崎 陽子 19

やる気 …… 八代菊友会 續 司 19

ハスの葉奮闘記 …… 小原流八代支部 本田 糸子 20

想い出 …… 日本民謡八代尚和会 久保田尚夫 22

鏡町「愛鏡祭」漬物名人に選ばれて …… 沖田須磨子 22

お姑さん ありがとう …… 八代歌人懇話会 岩城恵美子 23

お茶と連歌の交流 …… 伝統文化親子茶道教室育成会 小竹 誠子 23

「松浜軒」「池坊花道遥白選」に認定伝達式を行う

池坊八代支部 支部長 川野美代子 24

地域の伝統芸能を披露 菊池市で「子ども芸術祭」

高木 記 26

《受贈誌紹介》 坂崎 文子 著 歌集「紅梅」

太江田 記 25

《史話連載》 知っているようで知らない八代の史話

いんにやく神社 …… 萱嶋 義邦 26

《お知らせ》 平成二十七年 八代市文化祭日程

(裏表紙) 28

表紙の言葉 …… 27

原稿募集 …… 24

広告募集 …… 25

編集後記 …… 27

## 巻頭言

## 文化祭オープニングに思うこと

八代市文化協会会長 福田 秀俊

今年の梅雨はよく雨が降った。毎年のことだが青い空と白い雲が心をはなやかにしてくれる。わずかな雨の隙間を見計らい、散歩するのが楽しい。この季節はアジサイが綺麗だ。またねじ花が勢いよく花芽をのびし、ピンクのかわいらしい花を咲かせてくれる。そういう発見をしながら



一喜一憂する日々である。

さて早いもので今年も市が合併して十年になる。市の方でも「新市誕生十周年記念式典」も計画され、皆で新市誕生をお祝いする気運が高まっている。

私たち文化協会も市の文化祭で、何かお祝いできないかと考え、それには文化祭の開会式でのオープニングを何とか工夫してやれそうなお話はないかと思っている次第である。

先日文化祭実行員会でこのことに関して話し合いを行った。その場では様々な意見が出た。

本年はできれば、外部の有名な団体に依頼したらどうか？ということになり、予算も伴うことだが、秀岳館の雅太鼓をお願いしてはという結論に至った。

早速、文化振興課と私とでお願いに行くことになり、秀岳館

も快く引き受けて頂いた。これでオープニングが盛大にできるので大変嬉しく思う。ご協力頂いた中川静也校長先生、雅太鼓の顧問の先生方には心より感謝いたします。

さてこのオープニングだが、県の方では毎年盛大に行っている。当然文化祭の華であるので、有名な方々、それに公募で集まった方々等の素晴らしいものが発表される。今年から三年間は指揮者の山田和樹さんが中心となりオープニングを努められる。山田和樹さんは指揮者だが、ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝、それ以来アメリカ、ヨーロッパの有名なオーケストラの指揮者として活躍され、日本の有名なオーケストラも指揮されているという素晴らしい方である。

今年「新・吹奏楽」と題して、県内の優秀な吹奏楽団（八代市も百合台高校が入っている）を集めてドリームバンドを結成され、それに合奏も加えられた演奏をおこなわれる。次年度は

合唱を中心としたもの、さらに平成二十九年度はオーケストラを中心にした企画が計画されている。いまから楽しい企画である。

私たちの文化祭もこのオープニングは始まって間もないので、これまでは文化協会の各部門で引き受けて頂き、毎年輪番制のようになっていく。それぞれの素晴らしいが、この部門を越えて高い芸術性のあるものを目指していく時期に来ているのかもしれないと思う。しかしそれには、各部門の代表や、企画、運営と相当な時間と準備が必要で、果たしてそこまでのものを実行する時間と余裕があるかどうか、様々な問題を抱えている。

しかし私たちの目標である、文化を深め、ひろげ、つたえらという大きなものに向かって、なにかしらの行動を起こす時期に来ていると考える今日この頃である。

# 平成二十七年 度

## 定期総会開催される

平成二十七年 度の八代市文化協会の定期総会が、去る四月二十四日午後二時より、セレクトロイヤル八代に於て開催された。それに先立ち、午後二時より、地元 作家で「若山牧水への旅」等多数の著書で知られ、俳句や短歌にも造詣の深い前山光則先生による「われはけふゆく。種田山頭火」の演題で、講演があった。(詳細は別記)

又、八代歌人懇話会の会員坂崎文子様(九十四歳)から自費出版されたばかりの第二歌集



「紅梅」が坂崎様のご好意で配布された。

引き続き、同会場に於て、多数の来賓及び、県 文化協会協力会員の皆様のご臨席の下、総会が開催された。

会員の出席者百四十余名。永山事務局長の総会成立宣言の後、吉住副会長による開会の言葉。

続いて福田八代市文化協会会長による挨拶、来賓代表として、小早川県議、北岡八代市教育長のご挨拶、その他の来賓の皆様のご紹介があった。

その後、平成二十七年 度八代市文化協会文化功労賞に、写真連盟の麦島勝様、本部役員として藤吉千鶴子様、下村元子様ごが感謝状を受賞された。(詳細は別記)

その後、濱田隆樹、奥田ゆかり両氏を議長団に選出、議題に入る。

永山事務局長による平成二十六年 度事業報告、藤吉会計によ

る決算報告があり、中村監事による監査報告があった。まちの先生派遣の決算、説明が柏会計長よりあった。

また、永山事務局長より、二十七年 度の退会・新加入団体の報告がなされた。

次いで、平成二十七年 度の新役員紹介の後、事業計画案、収支予算案が示され、原案通り可決、承認された。最後に小寺副会長による閉会の辞の後、五十分無事に定期総会が終了した。総会終了後、同ホテルに於いて、ご来賓、県文化協会協力会員、各部門の方々と和やかに懇親会が行われた。

### 二十七年 度八代市文化協会

#### ○基本方針

八代市文化協会会員全員が、それぞれの文化を「ふかめる」「ひろげる」「つたえる」ことに努力し、レベルの向上と教養を高めると共に、地域住民の意識高揚に努める。

#### ○事業内容

一、文化事業の主催、共催及び後援(八代市文化祭・自主発表会など)。

二、会員の文化祭行事に対する育成及び助成。

三、文化協会機関紙「文化やつしろ」の年二回の発行。

四、年次総会、執行部会、常任理事会、理事会、文化祭実行委員会などの会議の主催。

五、委託事業としての「まちの先生派遣事業」「八代市文化祭」への実施協力。

六、その他、文化協会にふさわしい事業(講演会など)の計画。

七、研修旅行の実施。  
八、その他(伝統文化親子教室事業など)

### 平成二十七年 度における団体実情

○加入団体数 六十三団体  
会員数 一、五九九名。

#### ○部門

音楽・日本舞踊・洋舞・美術・文芸・園芸・伝統芸能

#### ○主な事業

八代市文化祭主催、会誌「文化やつしろ」年二回発行

#### ○退会団体

橘流 京扇会  
フラダンス フローレンス

(太江田・記)



後列左 藤吉さん 後列右 下村さん  
前列 麦島さん

平成27年度 八代市文化協会  
功労賞受賞者



文化協会  
功労者

氏名	麦島 勝氏 87歳
略歴	麦島氏は若いころからカメラを持ち歩き、地域の日常を丁寧に撮影した写真は民俗的資料としても高く評価されています。その多くを市立博物館などへ寄贈され、出版した写真集「川の記録」「昭和の貌」は世人の注目を浴びました。一方熊日フォトクラブ、全日写真で活躍され、現八代市写真連盟の代表として頭初より会をまとめてこられました。 八代市写真連盟代表 平成16年～現在

本部役員功労者

氏名	藤吉千鶴子（藤間浩花寿）様 76歳
略歴	文化協会理事28年間（S62～H26年度）、常任理事2年間（H13～14）、執行部として6期12年間（H15年度～H26年度、事務局1期、会計5期計12年間）、伝統文化こども教室12年間（H15～H26年度）、文化祭参加36回（S50年度～H26年度）、日本舞踊部門 文化祭実行委員12年間

本部役員感謝状

氏名	下村 元子様 74歳
略歴	昭和33年、財団法人小原流入門、昭和53年、専門教授者として八代支部の役職を経て、平成14年八代支部長を努め、参与として現在に至る。 また市関係として、八代華道連盟理事長を努め平成17年より文化協会理事、常任理事、執行部副会長として三期努め、現在に至る。

平成27年度常任理事

部 門	氏 名	雅 号
(音 楽) 7名	福 田 秀 俊 吉 住 豊 小 寺 ヤエ子 靄 池 千佳子 森 恭 子 勝 田 ミサ子 水 上 日登美	吉 住 紫 賀     椿 日登美
(舞 踊) 5名	柏 昭 子 山 本 昭 子 宮 崎 淳 子 萩 嶋 スミ子 白 石 有為子	聖 流 勢 長 花 柳 はん彩 西 崎 路  藤 間 州 爲
(洋 舞) 3名	永 原 千賀子 奥 田 ゆかり 大 井 ひとみ	
(美 術) 5名	中 村 智 浅 野 幸一郎 濱 田 隆 樹 片 岡 雪 子 甲 田 智 之	中 村 碧 水 堂 浅 野 碩
(文 芸) 3名	米 村 恒 憲 太江田 妙 子 高 木 容 子	
(園 芸) 2名	續 司 高 田 陽	
(伝統芸能) 9名	野 崎 陽 子 本 田 糸 子 川 野 美代子 永 山 惠美子 溝 口 ヨシ子 田 代 和 子 松 永 幸 子 松 山 やす子 藤 崎 三葉子	川 野 粹 光 永 山 龍 光 溝 口 華 良  松 山 宗 靖 藤 崎 香 葉

熊本県文化協会協力会員芳名

(順不同、敬称は省略させていただきます)

岡山 元紀	木屋 俊行	桑原 奥
坂本美智子	新開よしえ	徳田 義雄
中川 静也	橋本 晏理	藤門 豊明
増田 國夫	松永 久彦	元島 正信
守田 憲行	山元よし子	頼藤小枝子
緒方 光治	中村比呂志	

(平成27年 4月 1日現在 17名)

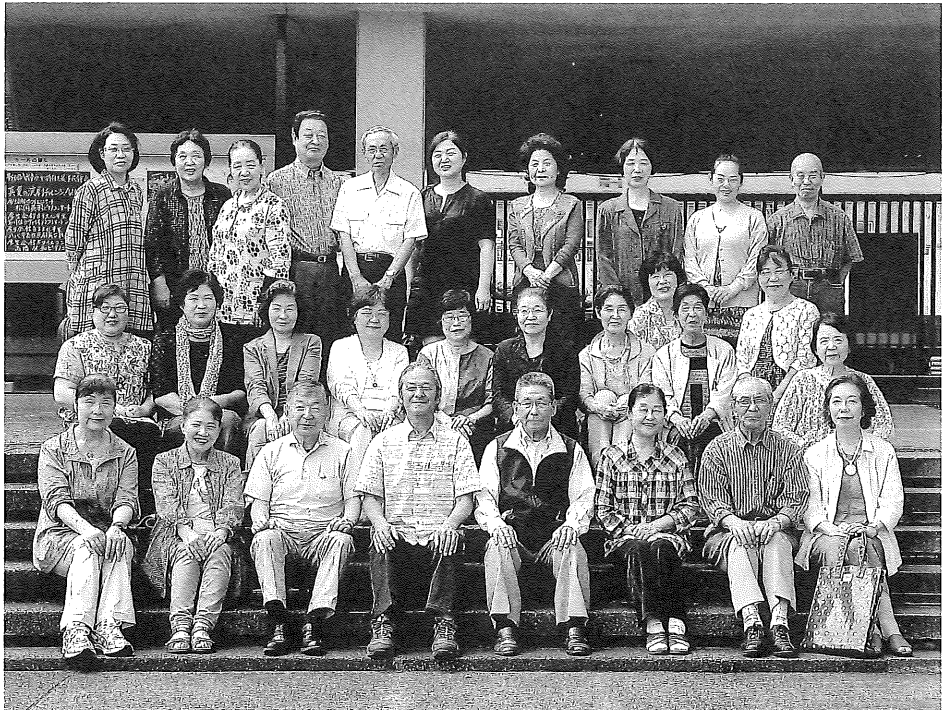
平成27・28年度執行部役員

氏 名	
名 誉 会 長 (現八代市長)	中 村 博 生
会 長	福 田 秀 俊
副 会 長	吉 住 豊
副 会 長	小 寺 ヤエ子
事 務 局 長	永 山 惠美子
事 務 局	永 原 千賀子
事 務 局	靄 池 千佳子
事 務 局	野 崎 陽 子
広 報 ・ 編 集	太江田 妙 子
広 報 ・ 編 集	甲 田 智 之
広 報 ・ 編 集	高 木 容 子
会 計	柏 昭 子
会 計	奥 田 ゆかり
監 事	中 村 智
監 事	浅 野 幸一郎
相談役(前会長)	萱 嶋 義 邦



平成二十七・二十八年度  
執行部役員及び常任理事紹介

執行部役員



常任理事

## 平成27年度 熊本県文化協会

## 平成27年度熊本県文化協会事業実施計画書

事業名	期日・内容等
①役員会	常務理事会 年7回、理事会 年5回
②会報「熊本文化」の発行	毎月1回
③平成27年度総会	平成27年5月25日(月) 熊本ホテルキャッスル
④第1回くまもと大邦楽祭	平成27年6月7日(日) くまもと森都心プラザホール
⑤くまもと子ども芸術祭2015 in 菊池	平成27年8月9日(日) 菊池市文化会館
⑥第54回熊本県新人演奏会オーディション	平成27年8月13日(木) オーディション くまもと森都心プラザホール
⑦市町村文化協会長・事務局長会議	平成27年8月20日(木) くまもと県民交流館パレア
⑧第57回熊本県芸術文化祭オープニングステージ	平成27年8月30日(日) 熊本県立劇場
⑨第57回熊本県芸術文化祭の推進	平成27年9月～12月
⑩第57回熊本県芸術文化祭前夜祭(45周年記念大会)	平成27年9月9日(水) ホテル日航熊本
⑪荒木精之記念文化功労者顕彰	第57回熊本県芸術文化祭前夜祭の席で顕彰
⑫第54回熊本県新人演奏会(本演奏会)	平成27年11月1日(日) 熊本県立劇場コンサートホール
⑬第37回熊本県民文芸賞	作品募集 平成27年8月11日～9月10日 授賞式・作品集の刊行
⑭第26回手でみる造型展	平成28年1月26日(火)～3月13日(日) 熊本県立美術館分館・天草如水館・不知火美術館
⑮熊本県文化協会賞ほか	各種大会、展覧会等授与
⑯加盟団体の文化事業補助	熊本県・熊本市の補助金で、事業の援助を行う
⑰第24回水環境会議	熊本県地域婦人会連絡協議会
⑱共催行事その他	

## 平成27年度熊本県文化懇話会事業実施計画書

事業名	期日・内容等
①役員会	常任世話人会 年7回、世話人会 年5回
②会報「熊本文化」の発行	毎月1回
③平成27年度総会	平成27年5月25日(月) 熊本ホテルキャッスル
④第49回熊本県小品美術展	平成27年7月22日(水)～7月26日(日) 5日間 鶴屋百貨店東館
⑤第50回熊本県文化懇話会賞・新人賞	平成27年度総会の席で顕彰
⑥第57回熊本県芸術文化祭前夜祭 (熊本県文化懇話会52周年記念大会)	平成27年9月9日(水) ホテル日航熊本
⑦第43回熊本県芸術功労者顕彰	第57回熊本県芸術文化祭前夜祭の席で顕彰
⑧第37回熊本県民文芸賞	作品募集 平成27年8月11日～9月10日・授賞式・作品集の刊行
⑨第43回新春かるた会	平成28年1月10日(日) (一財)熊本公聴会振武館 びふれす熊日会館内
⑩ブックコミュニケーション (郷土出版者の集い)	平成28年2月下旬 ブックコミュニケーション(郷土出版者の集い)
⑪その他	



# われはけふゆく

## 俳人 種田山頭火

### 前山 光則氏講演より

八代市文化協会広報委員 高木容子

去る四月二十四日、セレクトロイヤル八代での八代市文化協会定期総会に先立ち、特別事業として八代市在住の前山光則先生に山頭火の人物像・俳句・エピソード等のお話しを頂いた。先生の語り口を損なわないようにまとめてみた。



今日の演題ですけど「われはけふゆく」という題をつけてみました。

こんにちは。今ご紹介頂きました前山と言います。

このみちやいくたりゆきしわれはけふゆく(四十八歳)

この句は、八代市萩原塘の三号線と一番くっついているあそこの公孫樹の大木の根方で平成三年に出来ています。苔の生えないう石を、大澄太先生のアドバイスで使っています。そして山頭火の万年筆の直筆です。

「山頭火行乞記」の一番最初に載っておる句です。山頭火の日記はこの以前を焼きすてたためここからしか読めません。

だから八代は、山頭火の日記が読める第一頁目の土地である、ということになりますね。

山頭火の筆跡はもう一ヶ所で見ることが出来ます。日奈久の故人で福田先生が寄贈されて、八代博物館に所蔵の

濁れる水の流れつつ澄む  
という句で、勿論直筆です。  
そして日奈久温泉には「織屋」

という山頭火が泊まった木賃宿が残っていますもんね。

このみちやいくたりゆきしわれはけふゆく

どんな意味だろうとよく聞かれることがあります。ここに自分の目の前に道があるのだ。一体幾人の人達が行き来したのであるうか。自分は今行くんだ。これは多分松尾芭蕉の



此の道や行く人なしに秋の暮

を意識しているんだと思いますかね。やっぱり自分は旅から旅へ行くしかなかった、そういう自分の思いを書いていますね。

山頭火の俳句を分りにくくしているのは平仮名ばかりということですが、平仮名の軽やかさをどうも好んだ節がございいます。

濁れる水のながれつつ澄む  
これは本当に象徴的な句で、流

れつつ”を”歩みつつ”と云いかえていいでしょうね。濁れる自分が歩みつつ澄む、つまり自分は普通の生活、家の中の生活に籠っていると濁ってしまう。すぐ焼酎ばひん飲んでしまっ、すぐぶらぶらといけないことばかり考えてしまっ、歩んでいると心が澄んでくるんだ、と。

八代日奈久というのは、山頭火のとても象徴的なものを見ることが出来る町です。

一、作風の確立まで

これは大正十四年までで区切っております。俺はちゃんとした俳句が作れるようになったのは大正十四年頃からなんだと決めております。一大句集「草木塔」には大正十四年からのが入っております。

三十歳頃山頭火が目指したのは河東碧梧桐です。子規先生を越えて、無中心論、感動律に共鳴したのに結果としてあんまりよかったとは言えんですね。

大正二年、三十一歳の時に「層雲」に加わります。碧梧桐先生、私はあなたにすら満足しております。

萩原井泉水、この人の作句に

共鳴していくわけです。『自由律』というものです。多分山頭火はそれまでの感じがらめの『よし作るぞー』の気張りに縛られているところから解き放たれることができたと思えていいと思います。だから大正二年から随分変わっていきますね。

子と遊ぶうらら木蓮数へては

(三十一歳)

随分肩の力が抜けているでしょ。

専門に俳句をやっている方は『うらら』も『木蓮』も春の季語で、季重なりなので『あら何てこと』と思われるでしょう。

でも、使う時には重なってでも使う、使わん時には使わん、これ自由律ですよ。

今日も事なし凧に酒量るのみ

(三十二歳)

大正四年には

炎天だまつて土掘つてる

(三十三歳)

五・七・五にこだわっていないでしょ。労働の現場の句はプロレタリア文学の影響が表れていて、時代を反映しています。

みんなの唄にエンチンがよくまはる屋 (三十八歳)

作風確立までの山頭火はどうい

う生活を送っていたかと言いますと、明治十五年防府市の裕福な家庭に生まれたのですが、十歳の時、お母さんが井戸に身を投げて亡くなられます。二十歳の時早稲田大学に入学しますが、中退して帰郷。実家が傾いておるので挽回する為に造り酒屋を始めます。

今日も事なし凧に酒量るのみ

(三十二歳)

しかし、飲むのは好きだが造るのは苦手。文学活動はじゃんじゃんやっています。

ところが大正五年三十四歳の



時破産してしまいます。文芸の仲間たちを頼って家族中で熊本市下通りに越して来ます。

燕とびかふ空しみじみと家出かな

『雅楽多書房』を開きます。商

売は奥さんに任せっ放しの状態です。四十二歳、酔って市電を止めてしまいますが、この事件を機に望月義庵という偉いお坊さんに出会い、植木町の味取観音堂の堂守になります。

転機が訪れたわけですね。大正十四年のことです。つまり、

山頭火は自分の作風確立というものを、それに置いては捨てる。その頃からの俳句は捨ててしまふようなつまらんものじゃないわけですね。

ささやかな店を開きぬ桐青し

(三十四歳)

『雅楽多』を開店した時の句、いいでしょ。

それから時代をよく記録しているなあとと思うのが大正六年に作った句です。

・南無妙法蓮華經人の子の手はただれたり (三十五歳)

本妙寺の山門ですね。

・水はみな音たつる山のかかさ (三十六歳)

これは阿蘇、栃木温泉での作ですね。

そして繰り返しますが、大正十四年位になって転機が訪れたから、ここを自分の区切りにし

ております。

・けふも托鉢ここもかしこも花ざかり (四十三歳)

・ひさしぶりに掃く垣根の花が咲いてゐる (四十三歳)

毎日が充実しているのが伝わってくるような句ですね。

大正十五年になって又旅に出るんですね。その時作ったのが一番よく皆さんに知られている分け入つても分け入つても青い山 (四十四歳)

二、作風確立後の山頭火の句です。先が見えない、分け入つても分け入つても、どこまで青い山が続くんだろう、これはすごく解釈が分かれる問題にされる代表的な句であると言われていますね。

あちこちの放浪の旅で、特に昭和五年の長旅が一番長かった。



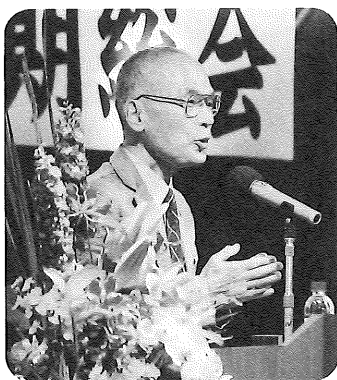
ただ、年齢がですよ、昭和五年で四十八歳ですよ。放浪の沙汰も体力次第で、放浪するにしても一ヶ所に止まりたいと欲が出て来ます。山口県に住み、湯田温泉にも住み、最後はお前はもう長くないとお医者さんにはつきり言われて、昭和十四年松山に渡り、昭和十五年十月十一日一軒屋の中で往生しております。八代に帰りましょう。

このみちやいくたりゆきしわれはけふゆく (四十八歳)

昭和五年の作ですが、九月から十二月は長旅をしております。息子さんの学資を稼ごうと頑張るけどやっぱり商売には向いてなかった。

筆まめな山頭火が五月から八月位まで使っても書いておらず、日記とか書翰類も熊本で焼いてしもうたわけです。一回ぐーと落ち込むんですが、やっぱり歩むこと、行乞しながら物を考え俳句をよむ、その中で心を浄化させていく、そういう愚かなこととしかできない自分を自覚するんです。その思い直しの旅が九月九日、八代での第一日目だったのです。吾妻屋から織屋へ。

“九月は日奈久で山頭火”でも引用されるように、日奈久温泉の宜しさを称えておるわけですね。ほうほうの体で旅に出ていますから、八代では疲れきっております。人吉になると俄然記述が増えてますね。



作風確立してからの山頭火は自分の作風に責任を持っております。

- ・徹底して五・七・五、季語の使用にこだわらなかったこと
- ・人に伝わる言葉を使うこと
- ・言葉で遊ぶということ
- ・俳句を作る時楽しかったらうと思えます。だから平仮名が多いのも遊び方の特徴の一つだと思います。平仮名ばかりの句。
- ・あるけばきんぼうげすわれはきんぼうげ
- ・あざみあざやかなあさのあめ

あがり

方言なんかも使ったりしますね。

- ・安か安か寒か寒か雪雪

それから自己対象化、その中で一番象徴的なのは

- ・うしろすがたのしぐれてゆく

か

自分の後ろ姿を眺めていますね。自分を見直す時には自分の後ろ姿はどうなっているんだらうと考えていく。

- ・分け入つても分け入つても青

い山 (四十四歳)

この句は自分の一生涯のことが象徴されていると思いますし、捨てきれない荷物のおもさまへうしろ

これは振り分け荷物だったらうかと思えますが、しかしやっぱり人生のお荷物を言っておる精神的なお荷物ですね。

最後に山頭火は友達に恵まれました。次はどここの郵便局止めでお便りはお願いますと挨拶の句を多く作っております。

- ・逢ひたい、捨炭山が見えだした

こういう葉書が来るとやっぱ酒ば用意しますね。

- ・逢うてチャンボン食べきれな

い

あんたが来てくれさつなころ

の風鈴

澄太おもへば柿の葉のおちるおちる

こぎゃん俳句作れたら、冷た



くできんですよ。

ざっと辿りましたが、変化に富んだ日々を送った山頭火は、商売は下手だし俳句と酒にかけろしかなかった一生なんです。俳句を作る時は羽搏いておった。俳句の中で自分は生きています。自分の本分だという思いがあったんじゃないかと思えます。そういう道を「われはけふゆく」と言ったようですね。

時間がきましたのでこれで終わらせて貰います。ありがとうございました。

会員の活動

素敵なハーモニイを目ざして

シニアコーラスフェスティバル

in 宮崎に参加して

コールせせらぎ 久保田 晴美

去る四月十九日、宮崎県宮崎市において、「シニアコーラスフェスティバル」が開催された。平成十八年にスタートしたこのフェスティバルは、九州各地で開催されており、今回が第十回の記念大会であった。四十七団体・千五百名が参加した中、私達コールせせらぎは、前年の熊本開催に続き二回目の出場となった。

昨年、コールせせらぎの指揮者であり、私達をご指導頂いている宮河先生から「二度とこんなチャンスはないですよ。」と言われ、熊本県立劇場のステージに立って歌ったあの日が、一番の大舞台のステージだったのだが、まさか二度とないチャンスが今年もやってくるとは、夢にも思わなかった。ましてやその舞台が、クラシック音楽専用のホールで、全国的にも超有名

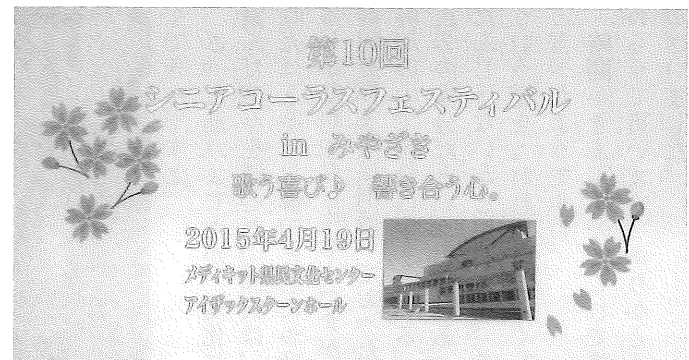


な、あのアイザックスタウンホール。本当に、一生に一度も上がれないようなステージで歌うと

いうことで、身の引き締まる思いと喜びで、胸が熱くなった。

本番当日は大型バスを借りきり、宮崎まで約二時間のドライブ。車内はまるで、学生時分の修学旅行のよう。到着早々、既に始まっていたステージを見るため会場入りしたのだが、入場して真っ先に目に入ったのが、正面に設置された巨大なパイプオルガンであった。その壮大さにまず驚いた。また、クラシック専用ホールということ、やはり音響効果が本当に素晴らしく、他の出場団体が上手ということもあるが、心の中まで響き渡るような感覚で、心地良い音色に完全に癒されてしまった。

出番が近づき、衣装に着替え、リハーサルをしていると、緊張から徐々におなか痛くなったのだが、いざステージに立つと意外にも落ち着いて歌うことが出来た。これもこのホールの凄さなのかもしれないと思った。私達は、戦後七十年という節目の年ということもあり、戦後の厳しさを謳った「ヨイトマケの唄」と、過去にいろいろあったけれど、強く生きていこうと謳っ



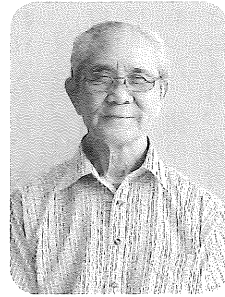
た「時代」の二曲を歌ったのだが、練習よりもうまく歌えたのではないかと思っている。

私は、合唱の魅力は、みんなの声と心が一つになった時に奏でるハーモニイの美しさと思っっている。この貴重な経験を活かして、これからもみんなと心をつなぐ、聞いている方が感動していただけるように、素敵なハーモニイが奏でられるよう、また練習に励みたいと思う。

会員の活動

# シリーズ八代を彫る 第四回八代版画美展を終えて

八代版画の会 代表 鍛 本 恵 子

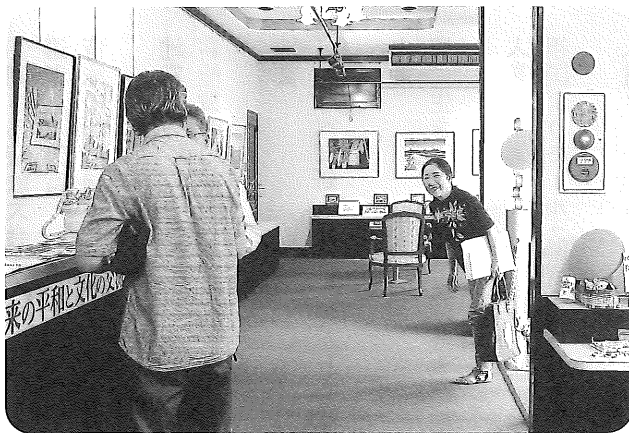


濱田会長



くまモンとピンクののぼりが目印の八代版画美展も無事終了しました。この版画美展も早いもので発足から丸四年を迎えました。

皆様方の版画に対する暖かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。何度も会場へ足を運び、今までの作品集を熱心に読んで下さったお客様もいらっしゃいます。あれほど熱心に読んで下さるとは感激です。主催者として本当に嬉しく思いました。会場内で「良かったらお茶でも如何ですか」と時々声を掛けさせて頂きました。色々なお話をさせて頂く中で多くの勇気を貰ったり、反省させられたり、貴重なご意見は今後の方向性を見出すような気が致します。四回目ともなれば、皆の思い、作品制作等活動の足並みが揃い諸準備をする者として落ち着いてやれたような気がします。テーマ作品の下に作品になった場所、作者の意図等をコメントで表示したり、版木を並べて実際の彫りを見て貰いました。



ました。子供達の版画作品もそれはそれはみごとで、発想豊かな題材に思わず引き込まれてしまいました。きみ子の部屋へどうぞ遊びに来て下さい。又、手編みの籠や、アクセサリー、ポストカードも好評で女性のお客様の足が必ず止まりました。展覧会を華やかにと近所から頂いた季節の花も活けました。ウツギ、シャクヤク、蘭、ニゲラ、カンパニュラ、シモツケ草等の花々が優しい表情で応援して

くれました。ご近所の皆様方山のお花を本当に有難うございました。

さあ来年は区切りの第五回展です。展覧会がマンネリ化せぬように、皆で知恵を出し合い、内容等を検討します。テーマとして掲げる「八代を彫る」シリーズは大きく続けます。まだまだ八代の素晴らしさを再発見すべく絵になる八代を探します。元の小さな花や生き物だって主役になれるはずですから。来年もどうぞ八代版画美展をお楽しみにお待ち下さい。私達はこれからも会員間の親睦を図り、新しい仲間作りは勿論ですが、自身の研鑽に努めて参りたいと思います。地域における文化面での様々な交流が増え、八代が益々心豊かになりますようにと願います。版画をやって本当に良かったと思えるように、先ずは元気で楽しく頑張りたいと思います。皆様方のご支援に心より感謝致します。

会期 五月十一日(月)〜十七日(日)  
会場 東京画廊シャティ館  
2階ギャラリ

会員の活動

# 熊日潮さる短歌大会

## 開催される

八代歌人懇話会 太江田 妙子



熊日転載

第二十五回熊日潮さる短歌大会が、熊本日新聞社・八代歌人懇話会主催で、六月二十一日(日)八代市のハーモニーホールで開催された。当日は梅雨のさ中にも関わらず、良い天気恵まれ、四十二名の方々が会場に足を運んで下さり有難い事であった。

天賞に、八代市の松岡淑子さんの「背泳ぎの形に腕振り「リハ」続く杵き故郷の海想ひつつ」が選ばれた。

選者には、県歌人協会副会長の橋元俊樹先生、同協会の理事柘植周子先生をお迎えし、太江田も加え三人で務めた。県内各地から、遠くは東京から一人、計七十六首の応募があり、選者の先生方による選考と、出詠者全員による互選が、前もって行われており、入賞作品が決められた。

又会場では、応募作品全部に亘って、選者の先生方から、懇切な作品批評・解説・アドバイスがあり、和やかで充実した短歌大会であった。他の方の作品を、しっかり味わうことにより、自分の実作に更に励みができる。選者の先生方の御指導により、其の事が改めて実感できる短歌大会であった。

選評後、表彰式が行われ、入賞者には、賞状と記念品が贈られた。



◎潮さる短歌大会 入選作品

選者選 天賞 松岡 淑子

背泳の形に腕振り「リハ」続く杵き故郷の海想ひつつ

地賞 坂中 譲児

薪能舞台の袖の暗闇に面をはずした人の目光る

地賞 本島美代子

名を呼べば新入児らは弾かれしゴムのごとくに返事して立つ

人賞 下田みのぶ

農に生き田で逝きし父跡残す草地のアスパラ真直ぐに立ちて

人賞 守住 良隆

祖国よりモールス信号受けたるや鉄錆しまま「武蔵」現る

人賞 堀田 英雄

泣きながら盗癖病む子の頬打ちて諭しし友の遺影と別る

互選一位 杉本スズ子

もう君に会えない風の夕暮れをロングマフラー三重に巻く

互選二位 三浦タエ子

亡き友が乗りてはいぬか夕なぎの入江に金の水脈引く小舟

互選三位 宮嶋 良子

叱られてひとり眠りし五才児の涙のあとをそっと拭きやる

俳句 八代俳句会 七月例会より

確と生きしかと伸びよ青田風	恒 憲
父よりも遙かに老いて墓洗ふ	初 子
平凡な日々の重さや敗戦忌	淳 子
羅の袖丈詰めて孫の婚	美津子
捨て猫の白美しき夏の草	久美子
夏の日や特攻隊員皆若し	一 誠
品書きの筆女手の夏料理	久 男
一張りを残す仏心蜘蛛の糸	千代子
朝ぼらけ迷子のやふな夏の月	笑 子
月涼し水田にありぬ双子月	浩 子
走り梅雨仁王様にもある指紋	礼 子
夕焼けて村に影絵の幕の下り	文 代



鏡合同歌集 「蒼天」第三十一集より 五十音順

娘が産みし未来に生きる孫なれば我も生きたし同じ世界を	岩城恵美子
遠くより吾を見てゐしあれは亡き夫かと思ひ夢より覚めず	太江田妙子
鶴富の逸話残れる山里と仰ぐ峯の辺しる雲清し	奥村 孝子
春風の運ぶ香りを浴びながらのどかに菜の花ウオーク楽しむ	篠原千代茂
亡き娘の微かなる影われに添ひ現の日々を支ふることし	島田 幹夫
あまりにも顔が寂しい紙の花髪に飾らむ千恵子のやふに	高木 容子
黄昏の光る物体夫も見しと「未知との遭遇」興奮しきり	中村 陽子
青海苔は干され風音波の音浜にうごめく人影もなし	葉山 高弘
散る桜追ふがに逝きて十二年夫の墓参へ花仰ぎゆく	松岡 淑子
金婚祝いにロボット掃除機頂いて暫し遊びぬ二人の時間	村内 一誠
歌ったり踊ったりする文化祭意外な人に会える時あり	村上 幸雄
お互ひに長生きするねと笑ひつつ物忘れひどき老いを寂しむ	吉田 昭造
鳥の影我の体を透りぬけ潮広がる砂浜に這う	吉野 佳子
新聞の配達に向う午前二時今日を占う信号機青	沖田須磨子

会員の活動

平成二十七年 度

吟詠発表大会を終了して  
文化祭の合吟とは違つて

紫洲流日本明吟会熊本本部 松山和鳳

今年の梅雨は平年より降雨量が多く、日照不足による農作物への影響が心配される中、私たち紫洲流日本明吟会熊本本部は、平成二十七年七月五日セレクトロイヤル八代において、本年度の発表大会を開催しました。

当日は雨も止み会員一同、日頃の練習の成果を発表すべく緊張して会場に足を運び、役員で会場準備を終り開会しました。

兵庫県芦屋市に総本部を置く、紫洲流日本明吟会は十五の各府県本部において昇段審査会を開催して、各府県本部相互の交流促進を目的に研鑽に努めています。今回は第九代総本部会長宮川紫朋先生、岡山南本部会長安藤紫靖先生を審査員に迎えての昇段審査会でした。大会委員長吉住紫賀会長、総本部会長宮川紫朋先生か



ら練習の結果を発表する心構えと、審査規定は安藤紫靖先生から発表があり吟詠発表に進み、プログラムによる出番を待つ時間の緊張たるや皆同じで、文化祭の合吟とは違った雰囲気でした。

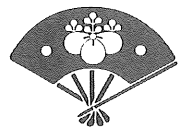
発表が終わり、審査委員長から、解りやすく注意点と専門的表現についての講評があり今後の練習に生かすことを肝に銘じた次第でした。

紫洲流日本明吟会総本部では、全国選抜競吟大会、師範昇格審査会と今回の各府県本部昇段審査会を開催し会員の研鑽向上を期しています。

熊本本部は吉住紫賀会長の指導により各教室で毎週練習に励み、一月には、初吟大会の開催と年度総会を開いています。

熊本県吟詠連盟の決戦大会、八河杯コンクール、吟詠フォーラム熊本発表大会、最優秀選手権大会に参加し、八代市文化祭に毎年参加発表しています。

時代の高齢化による会員の減少が各種団体の共通した課題であります。声を出すことで健康に繋がるので、年間を通して新会員の入会を歓迎していますので、希望者の入会を期待しています。



会員の活動

ホワイエ

コンサート

八月七日(金) 十三時  
八代厚生会館  
ホワイエにて

去年四月から二ヶ月に一回程度の割合で高橋佐知先生(合唱団からたち伴奏者)のホワイエ・コンサートがあった。今回は「子供の領分」

ドビュッシーより  
一番 グラドウス・アド・  
バルナツスム博士

六番 ゴリウオッグのケイ  
クウォーク

ソナタ「熱情」ベートーヴェンを演奏された。

特に「熱情」は力強いまさに熱い演奏で暑い午後ではあったが、暫く暑さを忘れて聴き入った。欲を言えばもう少し聴く人が多ければと思ったことだった。音楽会の時は伴奏丈しかお聴きしていなかったが、ドレスでない時の素顔の演奏に、先生をより身近に感じたことだった。

(高木記)

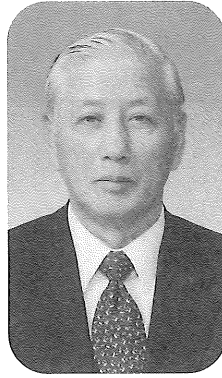


会員広場

## 社会常識

自らの常識は横におき…

熊本県文化協会協力会員 増田國夫



最近では教養ブームの観がある。

テレビ番組は常識や漢字・料理・生花・俳句・時事・法律問題、「〇〇教室」等多岐にわたり書店にはこれらの書籍がみられる。一方、年長者の「今の若い者は常識がない」等の声もある。

政治、企業、公務員、スポーツ等の不祥事発生時の透明性、説明責任、法令遵守、常識や社令とのズレの指摘もある。

ところで、私が若い頃も、年長者の「今の若者は常識がなく頼りない」等の言を耳にしたが、その頃、「葉隠」(原著山本常朝編訳神子侃)を読んだ。元禄時代の風潮と泰平ムードに安住した若侍の姿に慨嘆している様子が記されていた。時代は異なるが

いつの時代も年長者の若者への眼は厳しいものだと感じた。

昭和五十四・五年頃、「〇〇の常識は〇〇の非常識」との常識問題が社会的耳目を集め役所や企業、政治の常識が世間の常識や社会とのズレが指摘された。

役所では市民応接が問題となり窓口の応接態度や業務処理の効率性が問題視され、法律に基づき行われる公務員の業務処理が杓子定期的との批判がなされた。しかし、「杓子定期は法律の生命」であり、ルール(理)の遵守と人情や常識(情)との調和が求められていると思つた。

その頃、ある講演会で常識についての話を聞いた。当時は安定成長の時代で効率や合理性が求められる物の豊かさの反面、心の荒廃が言われた。講師の「我々の世代は惻隱の情や自己犠牲、礼節秩序、和・慈悲・恥の心等の東洋思想的価値観を共有しているが、数十年後には個の尊重

や効率合理性の西洋思想の広まりが予想され日本の将来を憂慮している」との言葉が心に残っている。果して三十余年経ち東洋思想的価値観の希薄化が感じられる。

今、世界の多極化と価値観の多様化、インターネットの普及による情報の瞬時の伝播等グローバル化により世界の一体化が進み生活スタイルの変化も見られる。又、世界各地で見られる対立や紛争の基底には、資源や宗教、民族問題があり問題解決には文化や言語、社会の仕組を共有し伝統的結合の共同体である民族の理解が必要とされる。外国文化の理解と自国文化の習熟が求められる所以である。

日本社会では国民の司法参加として裁判員制度やポピュリズム、後出しジャンケン、世論動向注視の高まり等がみられる。

このような状況の中で個々人の間で諸種の問題で利益の衝突が生じた場合の解決策として裁判でも何でも相反する当事者の利益を比較衡量して重要な利益を優先させるバランス感覚や利益衡量の方法がとられるとされる。この場合一般社会で受け入

れられる常識は有効な判断要素となるので社会一般の常識が何であるかを常にウォッチしておくことは大切であるとされる。

又、本質を見極め、読み解く鍵として多くの国民に共有できる価値として四つの価値観①公正②透明性③説明責任④情報公開が言われている。

我々は日々の生活の中で必要とされる知識や経験、職場での専門的知識以外の文化や芸術、学問等の教養の必要性を感じないことが多いが、教養は人間性を豊かにし常識やバランス感覚の糧となり大局観の基となる。

常識は人間社会の発展と共に歴史的に変わってきたし、個人的にはこれまでの経験による判断基準である。物事の判断に際し自らの常識は横におき「社会一般の常識は何か」の見極めも場合によっては必要となる。

「知は力なり」と言われる。

インターネットやITに疎く時代遅れの感の強い私は、移行行く時代の中で自らの足許を見つめながら時代に取り残されないうよう「一般社会の通念・考え方」「社会常識」「教養」を身につける必要性を感じている。

会員広場

# 湊川神社に参拝して 宮司の熱談に聞き惚れて

紫洲流日本明吟会熊本本部 西田 紫岱

神戸で催された全国大会の翌日、見慣れた町ではあるが湊川神社へは初めて参拝をした。と言うのも吾が会の吟教本に楠木正成公を題材とする詩が多数掲載してあり、機会をとらえて訪ねたいと思っていたのである。

かねて打ち合わせの通り、JR神戸駅で案内の方と合流し、神社への道筋を辿る。

広い神域参道の右側には当時、逆賊正成の墓として荒れ放題を憂えた、水戸黄門様の直筆による「嗚呼忠臣楠子之墓」が寄進され、亀蛇に乗った中国式の堂々とした石碑として石灯籠群に囲まれ荘厳な様を表して居る。

参道を進むと、これも亦、手際の良いことに、案内人から連絡を受けて居たらしく、神社の宮司が持っておられ一緒に参拝をした。

その宮司の案内で、本殿左後ろの、通常は登壇禁止という石垣で囲まれた正成公殉節の場所

に案内され、父の代からの生い立ち、後醍醐天皇を足利尊氏と共に擁立し天皇ご親政を実現したが、次第に尊氏と袂を分かち、

ついに戦い利あらず死に臨み、その子正行が父の遺言に従い兵を挙げたこと、下って幕末には勤王回天の志を持つ坂本龍馬等の参拝で賑わい、明治の御代には、神として別格官幣中社の造

営が成された事など、立て板に水を流すとは、このことかと熱談に聞き惚れた。

当初の打ち合わせ三十分が二時間になり、予定していた、後二箇所の見学はできないまま終了と成った次第であった。

只、帰り道に湊川という、海に面した川のあった場所に案内して戴いたが、現在は商店街に姿を変えており平成七年の大震災前までは、大変賑わった場所との説明に納得する。

なぜなら、その直線的な商店街の入り口と出口の高さの差が

会員広場

# 母が歌い息子が踊る 親子共演コンサート

宮河 博子 先生

歴然としていて誰が観ても勾配が分かり、通りやすい町並みである。

後ろ髪を引かれる思いで、案内人と亦の再会を約して帰路についた。

八月九日(日)六時半から文化センターで開かれた。昨年はお一人での発表だったが今回は三部構成で第一部「母が歌う」としてますます磨きのかかった声で浜千鳥、待ちぼうけ、初恋、アヴェ・マリア等を披露。

からはやんやの拍手喝采だった。母親を気遣う息子さんの心情的も挨拶の言葉の端々に感じられ、心温まる共演となった。

(高木記)

第二部は「息子が踊る」として、荒馬座で活躍中の息子さん夫婦で笛(妻)さんさ踊り、ソーラン節等踊られ(夫)夫婦二人のびったり息のあったところを披露された。

第三部は「母と子の共演」としてお母様の歌声で舟唄、五木の子守唄、息子さんの踊りで力強い獅子舞、傘踊り、前にお多福の面後は男性の面をつけた楽しくも不思議な、しかも非常に鍛えて柔らかい体での両面踊りの披露。その素晴らしさに会場



会員広場

# くまもと子ども芸術祭出演

植柳盆踊保存会 野崎陽子

夏が近づくと盆踊の頃と成り、今年も、五月には三十八回目の全校児童の植柳の盆踊が植柳小学校運動会で踊られ、又、文化庁伝統文化親子教室の会場を体育館でも六月から開講しました。

柳小学校の梅田校長先生はじめ、八代市文化協会の方々、御家族の皆様は観賞していただき、有難く感謝申し上げます。

七月は、保存会員と子供（松永和花）で「熊本駅つばめ夏祭り2015」に八代市のトマピソと一緒に出演。八月九日の「くまもと子ども芸術祭2015 in 菊池」には男踊（松下奨拓、北岡 稜、村上拓人、竹下 涼、松永知寛）、女踊（松永彩華、有田葵衣、木村七海、松永和花、稲垣 心、有田領華、遠山 楓、有田未夢）が出演し、八月十四日の「ふるさと祭り植柳盆踊り」にも、先頭に立ち、植柳の方々と一緒に、他の地域から来られた方も輪に入って踊られ、又、踊り手のはやしが大きく響き、口説き手と踊り手の調子も良く一段とにぎやかな楽しい盆踊りに成りました。

菊池の子ども芸術祭には、植

子ども達は早朝出発し、バスの中でエンディングに歌う曲を口づさみ、リハーサル、会場見学、表彰式交流会等に出席し、本番には、口説きとはやしは五名の保存会員。中学生一名、小学生十名、年長園児二名で踊り始めると、自然に会場から手拍子が出て来て、子どもの盆踊に合わせ、止まる事無く最後まで続きました。これは初めてのことでした。

又、子ども達は、会場での各華道の生花や、本棚作りの体験をして、手にいっぱいのおみやげをかかえ嬉しそうでした。帰りのバスでは疲れて眠むるかと思っていました。笑顔で歌やおしゃべりをして、元気で植柳に帰り着きました。

その一週間後には「ふるさと祭り植柳盆踊り」に口説きや踊

会員広場

## やる気ー久しく菊づくりをー

八代菊友会 續

司



りで大人と一緒に植柳の盆踊を盛り上げてくれ、又、新しい二人の口説き手も加わり、子ども達の活躍に感心します。それも、先生方や校区の方々、

保護者の皆様の御支援と御協力です、毎年子ども達が貴重な体験を通じ成長して行く姿を見て頼もしく、楽しみにながら、私達保存会員の励みに成っています。

私は数年前に、ある地方の菊名人が通販友の会月刊誌に「莫迦と阿保のよもやま噺」という題で数回連載されていた中で、私に菊栽培について、大きく変化させるいくつかの文面があり、それを実践してみようと思い、毎年冬の作業量の少ない時期に読み返し、やる気を出す糧にしている。

うという心がなかったら見ても見えない。人間の耳はふしぎな耳。聞こうという心がなかったら、聞いていても聞えない。頭もそうだ。初めから良い頭、悪い頭の区別があるのではないようだ。「よしやるぞ」と心のスイッチが入ると頭もすばらしい働きをはじめ。心のスイッチが、人間をつまらなくもし、すばらしくもしていく。電灯のスイッチが、家のなかを明るくも暗くもするように。

その(1)は、人は劣っている菊を一夜にして見違えるような菊にしてくれる薬は無いので、知識は必要だけど、小手先での作業は禁物で、時間がある時早目に準備しながらシーズンにあわせて作業をしない事。

「どうですか皆さん」  
終りに、やる気を起すには心にスイッチを入れ、体力を知り、自分が納得し、人が見てくれる菊つくりをする年月が長く続く事を夢みて頑張りたいです。

その(2)は、ある教育者の「心のスイッチ」と題する誌である。人間の目はふしぎな目。見よ

会員広場

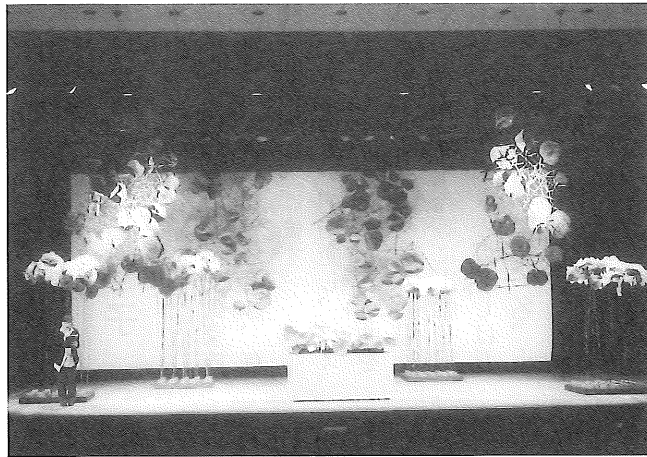
# ハスの葉奮闘記

小原流八代支部 本田 糸子

「講習会にしたら花展よりも経費が節約できる。水ものだったら花材費もそんなにかからない」益田先生のお言葉で、すべてが決まりました。

時期は六月か七月、花はかきつばたに菖蒲、そしてハスの花。ちようど良い時に最高の花があるかどうか少々不安な思いを抱きつつも、今年六月二十八日の八代支部創立記念行事に向けての準備を始めたのが去年の四月ごろだったでしょうか。

その後九月になって、益田先生からハスの葉を押し葉にしたものとドライにしたものを作るようにとご指示がありました。時期的にぎりぎりの状態でしたが、花屋さんに大量のハスの葉が残っている場所があるかどうか聞いてみましたら、一か所だけ「あて」があるというありがたい返事で、さしあたり日本のハスの葉を我が家までもってきてもらうことにしました。



く、あつという間にくしゃくしゃと萎れてしまうので、会員に手伝ってもらうために電話をかけるその時間があったいなくて、我が家で五十枚を押し葉に、五十枚をドライにしてみました。近所を回って新聞紙をもらい集め、スーパーからは大量の段ボールをもらってきました。段

ボールと新聞紙を適当に重ね、その上に茎を切り取ったハスの葉を、大きい葉は二枚、小さい葉は三枚ぐらい重ならないように敷きつめ、また新聞紙と段ボールを重ねその上にハスの葉をのせてという具合に何層も積み上げ、上から応接台やいけばなの稽古に使う長机や重い本などのせて重石にしました。そのように積み重ねたものが二つ、それを三日ごとに新聞紙や段ボールを取り換えながらひたすら押し

続けました。

家の中はハスの葉と湿った新聞紙の匂いでいっぱいになったことでした。

ドライにするハスの葉はできるだけ長い茎を付けたままという先生のご指示に従って、十本ずつひとまとめにして束の真ん中にひもを十文字にかけ、高いところからさかさまに下げてみました。バラやドクダミのようにぶら下げて乾燥させればよいと思っておりましたが、ハスの葉があんなに長いこと、ハスの葉があんなに大きいこと、束ねた

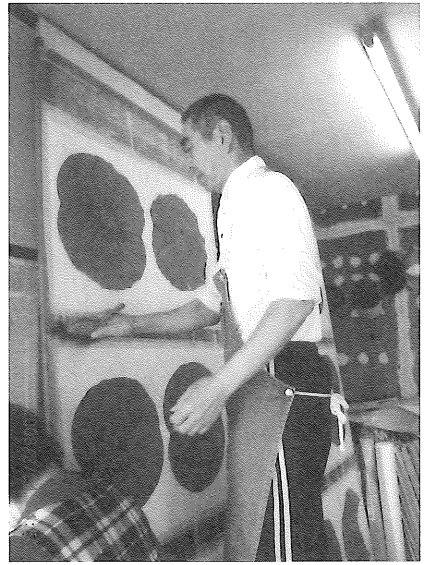
十本のハスはいかんなに重いこと、など想定外のことでありました。おまけにさかさまにされたハスの葉は見るも無残な形にしなびてゆき、そのうち水分が抜けて細くなった茎が束ねたひもから抜け落ちたり折れたり、しばらくしたらどうしようもない様相を呈してきました。そのうち、益田先生から押し葉とドライをもっとたくさん作るようにとのご指示が…。

更に二百枚以上のハスの葉が我が家の玄関先に山積みになり、今度は何人かの会員で手分けして押し葉を作ってもらうことにしました。

声をかければすぐに協力の申し出があり、そのようなたくさんの方の協力はその後講習会が終わるまで、様々な面においてずっと続きました。これには本当にありがたいことでした。ドライハスに関しては、支部で借りている倉庫の広い部屋の方も借りることができたので、そこに集まり、皆で知恵を絞り、そのままにしておけばハス池で立ち枯れた状態と同じハスにならず、と私たちみんなが信じ

た方法でドライにしました。話せば長くなりますのでその間の詳細は省きますが、その広い倉庫で、私たちの期待に応えようと押し葉とドライハスは数か月間眠り続けたのでした。

今年の四月、出来上がった押し葉を見られた先生からは、裏に紙を貼ってもっとしつかりした状態にするようにとのご指示。押し葉にしたハスはまるで紙のように薄く、しかも触ればすぐにごわれてしまう扱いにくい代物でした。先生は色画用紙かなにかを貼ることを考えておられたらしいのですが、ある会員の作業が表装業で、そのご主人が色画用紙ではハスの葉に貼りつかないから和紙である障子



紙で貼ることを提案されました。それでいくしかないと考えた私たちは、それから数週間必死になってハスの葉の裏打ちをしました。プロの仕事は素人の私たちがいきなり始めたのですから、つきつきりで教えてくださる「師匠」のご苦労は大変だったと思います。なにしろ失敗することなく全部を短期間で仕上げなければいけませんでしたから。

すべてのハスを裏打ちして、しかしまだ強度が足りず、もう一回同じことを繰り返さなければいけないと分かった後も、会員たちは文句ひとつ言うことなく作業をすすめました。

裏打ち作業は全く本格的で、見たことも触ったこともないような道具類を駆使し、腕や肩のこりにも負けず二百枚以上ものハスに障子紙を裏打ちしました。貼りつけては干し、貼り付けては干しを繰り返し、ひたすら「師匠」の家の作業場に通い続

け、高価な道具類はだいぶ傷んでしまったようでした。

しかしおばさんたちのパワーはたいしたもの、皆はみごとやり遂げたのでした。それも時間的に充分余裕ができるほど早く仕上げることが出来ました。

いっぽうドライハスは、今年の長雨のため湿気で葉が縮んでしまい、ハスの葉とは思えないほどがっかりするような出来になっておりました。しかしますますどうすることもできません。

最初の計画どおりに、一本一本をワイヤーで補強しながら、園芸用の支柱にくくりつけ、テープでつなぎ目がわからないようにしっかりと巻きつけ、長さを二・五メートルほどにしたものを百本作り上げました。見た目には長く一直線に伸びた細い棒の先にクシヤクシヤしたなにかわからない黒っぽいものがついている、そんなドライハスでした。

そのほかにも会員たちは桜枝を大量に集めて適当な長さに切り、それらをワイヤーでくくりつけたり、レンガを二つに割って真ん中にドリルで穴を開けた

り、ハスの葉の輪郭通りに障子紙を切り取ったりと、肉体労働と単純作業に明け暮れる日々を送りました。

そうして講習会当日、舞台のフィナーレを飾るハスの葉のオブジェは、サザンオールスターズの最新の曲に乗り、会員のパフォーマンスと共にみごとな出来栄を見せてくれたのでした。

講習会ではそのほかにも、ハスの花やその他の花たちが八代支部の先生方のいけこみによってみごとな出来栄で皆様をお迎えすることが出来ました。すべてが会員の一致団結と協力のおかげでした。そしてご指導くださった先生方の期待に添いたという願いも大なるものがあったと思います。

梅雨の最中にもかかわらず明るく晴れた講習会当日、八代市内また県内外からたくさんのお客様をお迎えしての記念行事を無事に終えることが出来、今は支部長としてこの六十周年記念特別講習会にかかわってくださったすべての方々、感謝の気持ちを伝えたいと思います。皆様どうもありがとうございました。

会員広場

# ワイプロ元年の頃

## 在任中の想い出

日本民謡八代尚和会 久保田 尚 夫



先日、新聞販売店が発行している情報誌に、「八代東

高校ワイプロ部」が紹介されていた。ここは、私が退職するまで二十年間も勤めた学校である。そして私は「ワイプロ部創設」の当事者でもあり、その後十年間、部の顧問をしたのであった。

退職後十五年間も、全然学校を訪問する機会がなかった。掲載の写真をみると、バックに当時生徒が使用していた戸棚が写っている。とても懐かしくなり、思い切って学校を訪問することにした。ワイプロ室も五階にあり当時と変わりなかった。

平成元年に、旧校舎が新しい五階建てに変わり、専用機が四十七台も入り、タイプを使っての授業が、新しくワイプロに変わり、生徒たちも大喜びであった。今までパソコンを使ってワイ

プロの練習をしていた五、六人の部員も、一挙に五十人に増え、放課後のクラブ練習は壮観であった。専用機で力をつけ、検定が始まったら、最高級の一級に三人が合格した。また第一回のワイプロ県大会で見事優勝した。当時は「タイプ競技会」として実施していたが、和文、英文、カナタイプの部門に加え、新しくワイプロ部門を加えての県大会になったのだ。

さて、熊本県では優勝したものの九州大会ではどうか。こちらも第一回で、他県のレベルも分からなかったが、競技会にのぞんだら、幸い準優勝であった。全国大会にはまだワイプロ部門はなかった。

生徒達だけでは惜しいと、「初心者のためのワイプロ教室」として、夏休み中の三日間、夜間での講座を行い、一般の市民にも公開した。応募者が殺到し、機械の台数に合わせ、人数を制限した。ワイプロの流行り始めたのだ。クラブ員五、六人

の加勢をえて、窓際に蚊取り線香をともしての講座であった。平成元年から七年までの記録が残っている。一回四十人としても、二百八十人の人たちがワイプロの基本を学んだ。そして当時荒れていた学校がある程度、見直してくれたと思う。

また昼間に「高校生とともに、一年間ワイプロの勉強を」というキャッチフレーズで、聴講生を募集した。毎年二、三人の人が希望し、ワイプロの技術を習得した。週三時間だけのワイプロの授業だが六年間も続き、十二人の人が卒業した。参加者には七十二歳の人もおられ、私はその向学心にいたく感服した記憶がある。

学習とは年齢に関係なく、いつでもできるし、また物事を知るといふことは、楽しいことでもあるのだ。生涯学習とはこんなことを言うのであろう。

帰り際にお礼を言って、今まで座っていた位置から、後ろの壁を見たら、なんと第一回優勝の表彰状が額に納められ、写真までつけてあった。私も写っていた。お礼の挨拶に「一番向こうに写っているのが、三十年前の私です」と付け加えた。当時

会員広場

### 鏡町「愛鏡祭」 漬物名人に選ばれて

沖田須磨子

去る五月二十四日八代市主催の「愛鏡祭」が鏡町で行われた。その中に今年も「漬物コンクール」が行われ応募したところ、思いがけず一位に。

沢山の賞品も戴いた。後日、FMやつしろさんより七月二日、ラジオ出演の依頼を受け、八代のラジオ番組に出させて頂き、楽しい十分間を過ごした。その折、司会者の上手な司会に誘われ、作り始めたばかりで毎日が楽しい短歌を紹介させて頂いた。

「愛鏡祭漬物名人」インタビュウ受ける気分は上昇気流

須磨子

梅雨明けのひたすら待たるる昨日今日、私は新聞配達の仕事をしながら、漬物づくり、短歌づくりを愉しんでいます。

会員広場

# お姑さん辞典をありがとう 時を越えて届いた姑のお礼

八代歌人懇話会 岩城 恵美子

「母の日に恵美子さんよりプレゼント」表紙の裏に姑の字発見。

現が良いだろうと散歩しながら作った短歌である。

姑は知識欲に溢れていた。新聞(政治・経済・催し物・スポーツ(孫の活躍するハンドボール)情報・地域の事件・新刊紹介・読者の広場・もしもし電話等の欄)・家の光購読・図書館の本が愛読書であった。農家の主婦で八人も子育てしたとは思えないパワーの持ち主で頭の中は柔らかかった。だから、子供の何気なく「ばあちゃん、これはなんと言うの?」「漢字を習ったよ。ばあちゃんも知ってる?」と言う話を聞いていたから、姑にカーネーションの代わりに辞典を送ったのである。姑七十歳の時である。太字の辞典を必要としていた自分に気付くことになった。辞典を送った姑の年齢に追いつこうとしている私にうつつの姑からのお礼とプレゼントになった。

辞典が見にくくなり亡姑が使用していた《旺文社一九八三年重版発行 国語辞典 新版(大活字版)》を取り出した。表紙の裏に「昭和六十二年五月十日 恵美子様より母の日プレゼント」と姑の字が目に入った。自分でも忘れていた事でもあり一瞬驚いた。しかし、姑が、このプレゼントを気に入ってくれていたことを知り、心の底からこみ上げるものがあった。あれから三十年近い年月が流れている。人は亡くなってもお礼が言える。と実感できた一瞬である。そんな姑の粋な計らいに、何とか応えたいと、始めたばかりの短歌を作ったのである。考えに考えて纏めようとする、かえって意味が伝わらない事もあると言っ指導を受け、それなら事実表

短歌がもう一つ出来た。

亡姑の日に太字の辞典プレゼント時を越え今我が友となる。

「年を取ってきたからダメだ」という事を言わなかった姑。

「出来る・出来ない」「する・しない」がはっきりしていた姑。

「嫁は娘、娘は嫁いだ先の娘ですけん。」「私はアータに看病してもらいます」「離婚するならばアータについていきますけん」と格言を残してくれた。母・姑・人として折々に実地指導をしてきていた。私の心のぶれが少ないのは大方姑の生き様が残してくれたいたエネルギーのお蔭と思う。そういう面でも姑は尊敬できる人であり今後変わる事はない。次々に育児せざるを得ない状況でも、時間の工夫をして読書していた姑に出会えたことが本当にラッキーであり、その姿勢を自分も踏襲していきたい。

会員広場

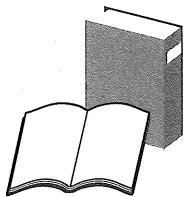
# お茶と連歌の交流

小竹 誠子

伝統文化親子茶道教室育成会

毎月二回土曜日、赤星水竹居館で伝統文化親子茶道教室を行っています。そんなある日、二度ほど八代の連歌の会の皆様と一緒にあった時がありました。こんな機会は滅多にないので「お茶を一服差し上げましょうか?」

と言う事になりました。子供達も「あげたい、あげたい」と言い大喜びで発表会形式に御干菓子運び、お茶を点て楽しそうに差し上げました。連歌の会の方々には一時休憩を取らせてしまいましたが、とても良い経験をさせて戴きました。心より感謝致します。子供に「連歌って?」聞かれても私の知識では解りやすく説明できず、帰宅後インターネットで調べ資料を渡しました。お陰で私も連歌について学ぶことができました。今後もし子供達に茶道を通じ、機会があれば他の伝統文化と交流し体験させていきたいと思えます。



会員広場

「松浜軒」

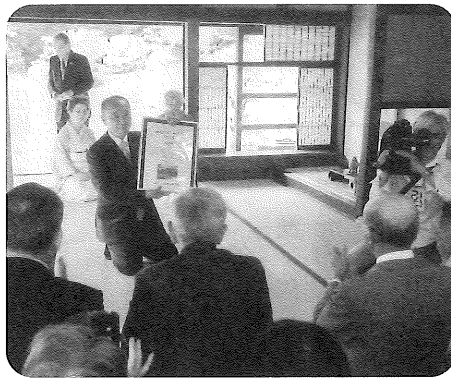
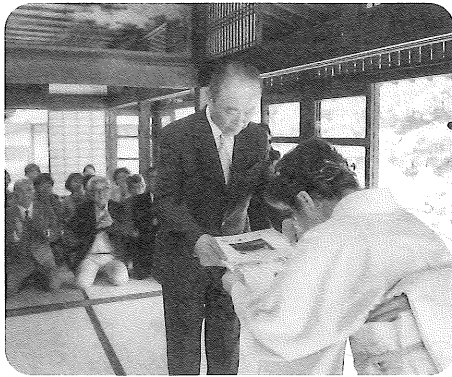
「池坊花道遙百選」に認定

松井葵之様に伝達

池坊八代支部 支部長 川野 美代子

「池坊花道遙百選」とは、華道家元池坊華道会が「未来にのこしたい日本の花風景」をテーマとして全国に応募したもので、華道の精神を映す花風景約千二百点の応募の中より、熊本では、ただ一件松浜軒が選ばれたものです。

私共は、ふだんなにげなく横の道を行き来しておりますが、



松浜軒に一步足をふみ入れますと、そこには日々の生活では味わえない：日本の四季を彩る花風景と建物が一体化する癒しの空間が広がります。

菖蒲・河骨・睡蓮の淡い色彩のハーモニーは、草木本来の「命」を表すいけばなの心を育んでいきます。きつと、いにしえの方々も、この部屋に座して花をめで、詩を詠み、茶を服され、

季の流れをゆっくりと過ごされたことでありましょう。

達式を行いました。

池坊八代支部では、八代市文化振興課の方々のご尽力をいただいて、去る五月二十七日(水)に松浜軒白菊の間において多くのご来賓の方、市関係者、一般の方々のご出席の中、認定書の伝

当主の松井葵之さまは、認定書を手になされ、池坊花道遙百選に松浜軒が選ばれたことを大変喜ばれ「これからもみんなの宝として、興味をもっていただき永く後世に伝えてもらいたい」と挨拶されました。

地域文化への発信地として

文化の裾野を広げよう

会報「文化やつしろ」71号

原稿募集

○投稿要項

▽原稿用紙 四百字詰め一〜二枚程度も可

▽内容

加入会員のユニークな提言、評論、随筆、芸談、苦心談、自分史、紀行、文芸作品、史談、写真。各団体の要望、事業計画など。

▽連絡先

(住所・電話番号) 要。問合せにのみ使用します。平成二十七年十二月三十日

▽締切期日

①〒866-8601 八代市松江城町一―二五

(八代市文化振興課内) 文化協会事務所

☎33-4533 FAX33-4516

②〒869-4223 八代市鏡町貝洲一〇五四―一

(編集) 太江田妙子 ☎53-9705

③〒869-5141 八代市日奈久塩南町五二―一

(編集) 甲田 智之 ☎38-0294

④〒869-4211 八代市鏡町上鏡二五九―三

(編集) 高木 容子 ☎52-3430



受贈誌紹介

歌集「紅梅」 坂崎 文子 著

人生に余生など無し



情、作者の人柄、表現に心を留められ、短歌を好きになって下さると信じる。

坂崎さんは御年九十四歳。納められた短歌は、二百六十首。

県民文芸賞の短歌部門三席にも入賞されており、短歌雑誌「しらぬ火」「もくせい」紙上にも

優れた作品を寄せて居られる。今なお元気に、毎月の八代短歌

会にもご出席で、真摯に歌を詠み続けておられて、私達短歌会

会員一同が目標としている御方である。

君と共に眺めし記憶 つぎつぎと枝の先まで梅の花 咲く

この歌は歌集の表題ともなった一首である。

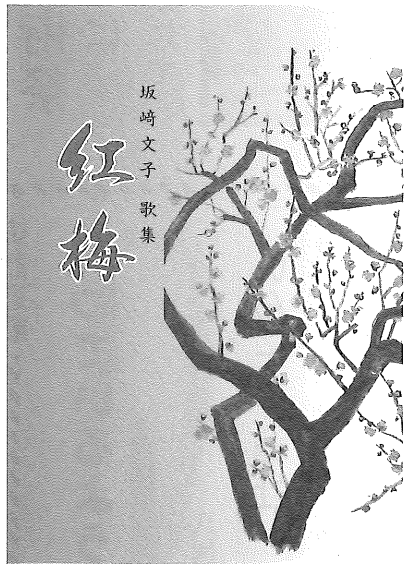
序文「紅梅に寄せて」には、熊本県芸術功労者賞を受賞された地元八代の歌人、小松正先生がお寄せ下さって、丁寧

に解説がなされている。表紙は、前八代市文化協会会長萱嶋義邦先生の絵である。その気品ある「紅梅」を手に改めて坂崎さんのお人柄とお心遣いにお礼を申し上げます。

本当に良い記念碑を御建てに成りましたね。心より「おめでとう」を申し上げます。

歌集「紅梅」より抜粋  
春浅き藻草のみどり靡かせて  
細き水路を水奔り来る  
吹く風に白さるすべり騒だてり  
今朝「立秋」を身を感じたり  
身の芯をきりり緊きしめ歩こうぞ  
アガパンサスは紫に咲く  
「人生に余生など無し」との言葉  
噛みしめながら球磨川渡る

歌集「紅梅」より抜粋  
君と共に眺めし記憶  
つぎつぎと枝の先まで梅の花  
咲く



負け重ね来し身つくづく思いたり  
庭草に射す影を見ながら  
水面に触れんばかりに咲く萩の花  
ゆったりと風を遊ばす  
稲刈られ存在軽くなれる田かいま  
柔らかに秋の日は照る  
これよりは独り静かに暮らす  
べし子ら帰らる夜半の三日月

お体に充分気をつけられ、坂崎様の益々のご健詠を祈念致しています。

(太江田 記)

広告募集始めました！  
あなたの会の  
お知らせやPRに！

○スペース  
四段目  
1/2マス＝一枠  
(5×7.5cm)  
○基本料金(一枠)  
三千元

〈申込み〉  
原稿投稿先と同じ (P27)

# 第三回くまもと子ども芸術祭 悠久千年の歴史絵巻を今ココに

菊池市文化会館にて

八月八日、九日菊池市で開かれたくまもと子ども芸術祭に、九日八代文化協会からも十一名参加した。

展示部門には児童生徒の絵画、書道、短歌、俳句、写真、生け花等が飾られ、楽しくも素晴らしい作品が目についた。木工品制作もあり、生け花の体験教室では、幼い子どももカーネーション等短く切って花で犬等動物の顔をフラワーアレンジメントしていた。

お茶の接待も小学生の子どもたちで行われ、おいしく頂いた。ステージでは、雅楽、宮太鼓謡、菊池北小六年生全員出演の狂言は生徒たちが紙で作った上下をつけての熱演。清和中学校の「傾城阿波の鳴門巡礼歌の段」では母と子の語りの二人がなかなかの適役で聞き甲斐があった。休憩の後、山鹿子どもカブキ教室の歌舞伎「白波五人男」、獅子舞が続き、その後、八代植



柳の盆踊「折助、おすて」がしめやかに披露された。日舞あり箏ありで終了後、次期開催地山鹿へフラッグを渡され終了した。

(高木 記)

## 史話連載

### 知っているようで知らない

### 八代の史話

八代美術協会 萱嶋 義邦

#### いんにやく神社

鏡町にある「いんにやく神社」は毎年四月におこなわれる「鮎取り神事」で有名です。この神社の「いんにやく」とは何だろうと、考える人も居ると思います。



これらは、大切に祀られています。これが印鑰神社のはじまりです。神社名の「印鑰」は律令制において律令国の国庁が朝廷から預かった「公印」(印)と正倉の「鍵」(鑰)を意味しています。これらは天皇の名代とも考えられ平時は別殿に厳重に保管されていました。

球磨の地頭相良長頼の命で弟為頼につくらせた神社です。蘇我石川宿弥の分霊をまつるとあります。この人は

第一四代仲哀(ちゅうあい)天皇に使え齋蔵(いみくら)と内倉(うちくら)の責任者でした。

※齋蔵(大和時代に、朝廷において祭祀のための神物を収納)内蔵(皇室の財物を収納)

石川宿弥を祭神としたとも伝えられています。いんにやくとは、印とヤク「かぎ」のことだったので。江上敏勝著「ふるさと百話」Wikipedia参照

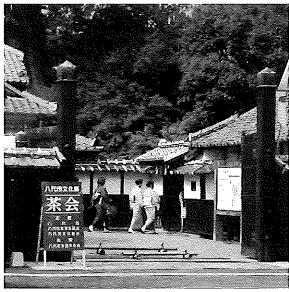
表紙の言葉

木の葉と木の葉の間をサラサラと通り抜けて爽やかに頬をなでる風。三百二十余年の昔、松井直之公が、母君崇芳院のために創建された茶庭は、江戸時代初期の大名庭園として大切に保存され国の名園に指定されました。

嘗て、松井興長公と親しかった宮本武蔵も訪れたかも知れません。度々八代を訪れた小説家の内田百閒は松浜軒に九回宿泊しています。

春は花苜蓿、夏は涼風、秋は御茶会、冬は雪景色(?)と八代随一の名勝地です。

その入り口でにらみを効かせているのがこの門です。粹な黒塀に僅かな白壁、高く突き出た門柱。モダンに思えませんか。貴重な財産松浜軒を大切に、時には訪れてみましょう。(甲田智之)



編集後記

「原稿をお願いします」始めの頃は、すーっと出て来ませんでした。皆さんの思い、活動、楽しみ、苦しみなどを語り合えば輪が出来て人生にも新風が吹き込むかも知れない。なんてうぬぼれたりもしていました。

しかし、未だにお恥ずかしい写真をお見せしたり、統一の取れない詰め込み誌のままで申し訳なく思います。

会報は「知識誌」ではないと思います。「知識」は思い込みの種を増やし、常識なる代物を膨らませ、ややもすると価値観や人生観まで歪ませてしまいます。

体験から生まれる「智慧」、知識に止まらない「智慧」これこそ本物で人生を豊にしてくれると思えます。

皆さんのご活動・ご体験・お知恵談義などは、共有できることしばしばで嬉しくなります。あなたは、銃で向き合うのと、智慧で語り合うのとどちらが好きですか？

あなたは「つまらん」と思うことでも、僕には、新鮮なことなのです。どうぞ投稿を。(甲田智之)

第二次世界大戦後七十の年にあたり、その関連記事等あち

こちで頻りに見られる毎日、加えて安永陸連注法関係のニュースも連日のように流され一段と暑い夏の今日この頃である。

戦中戦後の体験談も多く語られているが当時の不安や恐怖や貧しさを知る人の多くは七十年代以上となってしまう。

戦没者慰霊祭で必ず言われる「皆さんの尊い犠牲の上に立ってのこの平和」を今私たちは享受しているわけである。そして、それぞれ興味ある団体に参加し生活を潤している。しかし今なお多かれ少なかれ第二次世界大戦を引きずって生きている人を忘れてはならないだろう。東京で広島で長崎で外地で国内でその当時を生きた人々を。

サイレンの音は長じてからも、空襲警報のサイレンと重なってなかなか馴れなかつたし、小学一年生の下校時、敵機が見えたが一メートルばかり下の芋畑に飛び下りることができなくて上級生が引きずり降ろしてくれたことは今でも恐怖と共に思い出す。

いろいろ文化活動を通して原稿をお寄せ下さる方々に感謝しつつ、皆様の益々のご活躍を祈りつつ、編集後記とします。(高木容子)

☆うだるような暑さの中に、時折涼しい風が感じられるこの頃、会員の皆様には、何時も原稿を

お寄せいただき有難く思っています。

今年の夏は、安保改正法案、戦後七十年と世界中が注目する熱い問題が山積していて、社会的にも生き苦しさ、暑苦しさを感ずるのは私ばかりだろうか。

☆八月八・九日の両日、菊池で行われた「くまもと子ども芸術祭」に参加の「植柳盆踊り」を応援に、高木、齋池両氏と私、三人で、菊池まで出かけた。遠く阿蘇の山々を望む菊池平野は稲田の美しい緑と、菊池川の豊かな水に囲まれ、香り高い文化の里であった。

文明十三年(一四八一)菊池氏二十一代目の肥後の守重朝は、限府で一日一万句の連歌会「菊池萬句連歌」と言う連歌会を開き、家臣や、寺院の僧侶ら百人が、二十の座に別れ、各座で五百句ずつを一日の内に詠んだとされ、木庭の佐々木家に今も「菊池萬句連歌」と言う巻物が保存されているとの事で、子供たちが詠んだ、俳句・短歌も展示されていた。

菊池市では、伝統文化に、能や雅楽、神楽だけでなく、こうした文芸も盛り込み、子供たちの情操教育に役立てて居られ、学ぶべきことの多い子ども芸術祭であった。

連れ立ちて帰る子のあり秋つばめ 妙子

# 平成27年度 八代市文化祭日程

期 日	内 容	会 場	備 考
9 / 15(火)～9 / 20(日)	書 道 展 (八代書道連盟)	八代市立博物館 特別展示室	※ 休館日 毎週月曜日 祝日の翌日  9月14日(月) 9月24日(木) 9月28日(月) 10月5日(月)
9 / 22(祝・火)～ 9 / 27(日)	書 道 展 (白竜書道会)		
9 / 29(火)～10 / 4(日)	写 真 展		
10 / 6(火)～ 10 / 12(祝・月)	美 術 展		
10 / 25(日)	合 同 茶 会	松 浜 軒	
10 / 31(土)～11 / 1(日)	華 道 展	や つ し ろ ハーモニーホール (市民ホール) (多目的ホール) (大・中会議室)	
10 / 31(土)～11 / 1(日)	洋 舞 ・ 詩 吟 器 楽 ・ 民 謡 ・ 伝 統 芸 能		
10 / 31(土)～11 / 1(日)	盆栽・寒蘭・水墨画・ 押花・手芸編物など		
11 / 7(土)～11 / 8(日)		八代市厚生会館 (ホワイエ)	
11 / 1(日)～11 / 8(日)	菊 花 展	八 代 宮	
11 / 7(土)	日 本 舞 踊	八代市厚生会館 (ホー ル)	
11 / 8(日)	市 民 合 唱 祭		
10 / 12(祝・月)	短 歌 会	代 陽 公 民 館 (大 研 修 室)	
9 / 6(日)	俳 句 会	柳 屋 旅 館 (日 奈 久)	

文化やつしる第70号  
 平成二十七年八月三十一日  
 発行 八代市文化協会  
 編集兼発行人 福田 秀俊  
 電話三二二九六三  
 事務所 二八六一八〇二  
 八代市松江城町一―二五  
 八代市経済文化交流部  
 文化振興課  
 電話三三―四五三三  
 (印刷 賞緒方印刷所)